

2020年に向けたコープネットグループの環境基本政策

I. 温室効果ガス総量削減計画

東日本大震災を契機に日本のエネルギー情勢の大きな変化が進んでいます。そのため、この温室効果ガス総量削減長期計画は一時凍結し、今後の情勢を踏まえて、削減の枠組みを含めた見直しを予定しています。

省エネ対策

主体的な努力による省エネの施策で2005年度比11.1% (14,500t) のCO₂削減を行います。

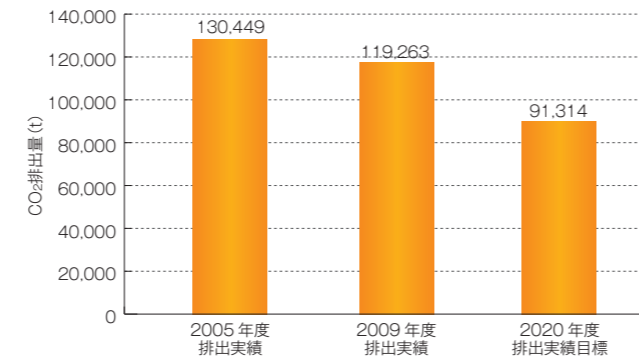
- 店舗、コープデリ事業の省エネ
店舗のLED照明への切り替え、バイオディーゼル燃料のインフラや安定供給のしくみを整備します。
- コープネットフーズ、協栄流通、本部施設の省エネ
省エネ機器やLED照明の導入、クールビズやウォームビズ等オフィス内での省エネの取り組みをすすめます。
- 再生可能なエネルギーや施設、設備等の調査研究
バイオディーゼル燃料、太陽光発電、グリーン電力、風力発電の導入を検討するために調査研究をすすめます。

CO₂ 排出係数改善

CO₂ 排出係数の改善で13.5% (17,647t) のCO₂削減を見込みます

電力事業者が発電する際に、再生エネルギーの活用や発電効率の改善をすすめることで、電力の排出係数が下がり、コープネットとしてのCO₂排出削減もすすみます。

■ CO₂ 排出量削減計画



カーボンオフセット

排出権によるカーボンオフセットによりCO₂を削減します (一旦、5.4% (6,988t) のCO₂削減を見込みます)

排出権によるカーボンオフセットにより、CO₂を削減します。また、「省エネ対策」と「CO₂排出係数改善」の対策後もなお目標に不足する場合は、カーボンオフセットによって削減します。

II. 商品事業の環境配慮

●低炭素社会を目指した商品

代表例としてカーボンフットプリント^{※3}表示商品の普及に取り組みます。



●生物多様性・自然共生社会を目指す

「佐渡トキ応援プロジェクト」「沖縄もすく美ら島応援プロジェクト」に続く企画を検討します。

●循環型社会を目指す

食品残渣 (残りかす) の肥料・飼料化や、「使用済み天ぷら油」を回収し、バイオディーゼル燃料への活用を促進します。

➕ 原料調達、生産、流通、消費、廃棄、再生等のライフサイクル全体で評価 = LCA (ライフサイクルアセスメント) の観点で環境負荷を評価することを大事にしています。

※3カーボンフットプリント=商品の原料調達から、製造、流通、販売、消費、廃棄までの全ての流れでCO₂がどれだけ排出されているかを表すこと。CO₂の「見える化」となり、よりCO₂の排出量が消費者に身近に感じられる取り組みです。

●環境配慮商品の基準は社会的に認知された外部基準に統一

すべての商品で環境配慮に取り組み、消費者、組合員にそのことをわかりやすくアピールするために、社会的に認知された外部基準を満たした商品を中心に提供します。

社会的に認知された外部基準の一例



※4 MSC商品=持続可能な環境に配慮した漁法で漁獲した水産物

※5 FSC = FSC 森林管理の認証を受けた森林からの木材・木材製品 (紙製品を含む) を使用した製品につけられるマークです。違法伐採などに由来する木材・木材製品が混ざっていないことについても審査されています。

III. 廃棄物の削減・ゼロ化をめざした取り組み

- 事業から出る排出物を減らし、再資源化率を高めます。
- 組合員家庭からの資源物をエコセンターで回収し、コスト削減と資源循環をすすめます。
- 食品リサイクル法、容器包装リサイクル法に対応した取り組みをすすめます。

IV. 組合員とともに進める環境保全活動

V. 地域諸団体・行政との協同による環境保全活動

VI. 環境関連法令への対応

※全文はコープネットのホームページから参照できます。

発行：コープネット事業連合 総合企画



2020年に向けたコープネットグループの環境の取り組み

【コープネットグループがめざす環境の取り組み】

コープネットグループは、将来にわたって持続可能な社会を実現していくため、組合員とともに3つの柱で環境の取り組みをすすめていきます。

循環型社会

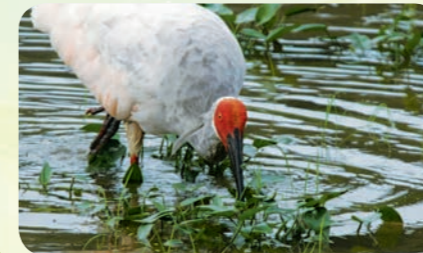
(廃棄物の削減とリサイクル)



コープネットエコセンター (2010年4月オープン)

自然共生社会

(生物多様性を守る取り組み)



佐渡トキ応援プロジェクト

持続可能な社会の実現

低炭素社会

(温室効果ガス削減の取り組み)



宅配センターのバイオディーゼル燃料のスタンド

環境基本政策の内容

- I. 温室効果ガス総量削減計画
- II. 商品事業の環境配慮
- III. 廃棄物の削減・ゼロ化をめざした取り組み
- IV. 組合員とともに進める環境保全活動
- V. 地域諸団体・行政との協同による環境保全活動
- VI. 環境関連法令への対応



第7回 エコプロダクツ大賞受賞!



コープネット事業連合に加盟する6生協の取り組みが評価されて、エコプロダクツ大賞エコサービス部門 農林水産大臣賞を受賞しました。



いばらきコープ* とちぎコープ* コープぐんま* ちばコープ* さいたまコープ*
コープとうきょう* コープながの* コープにいがた* コープネット事業連合

コープネットグループの環境保全の取り組み

低炭素社会の実現

1 全国の生協に先がけて総量削減を推進

これまでの供給高 1 億円あたりの原単位削減目標から、2012 年度までに 2002 年度比総量で CO₂ を 1%削減するという目標に変更しました。さらに、2020 年度に 2005 年度比総量で 30%削減を進めていきます。2013 年度以降は 3 年ごとに中期的な計画を策定して進めていきます。なお、コープにいがたは、2010 年度に自主行動計画を策定します。

2 バイオディーゼル燃料^{*1}車両の大規模拡大

2009 年度末までに 6 生協で約 150 台導入済み、2010 年度に合計 350 台の規模に。

現状 コープデリ車両（ガソリン車）
1 台当たり年間 CO₂ 排出量 約 3.4t

^{*1} バイオディーゼル燃料は、大豆、コーン、菜の花などの植物油の使用済み天ぷら油が原料であり、植物は光合成によって空気中の CO₂ を取り込んで成長し、この CO₂ が燃焼して再び空気中に排出されるために、CO₂ ゼロ燃料となります。



トラックに貼ったステッカー

3 カーボンオフセット^{*2}店舗は日本初

小売流通店舗として日本初と積極推進。さらに物流センターやエコセンターでも排出ゼロ。新店および新規開設事業所で取り組んでいます。

現状 SM 店舗
年間 CO₂ 排出量 約 550t



^{*2} 国連が認証する他国の CO₂ 削減による排出権を購入することでコープネットグループの相当する CO₂ 排出量がオフセットされ、国際的な CO₂ 削減に貢献する仕組みです。



循環型社会の実現

5 高い食品リサイクル率

食品小売業の義務化目標（2012 年度末）45%は、すでにコープネットグループ各生協が達成しています。

(2009 年度実績)

生協名	いばらきコープ	とちぎコープ	コープぐんま	ちばコープ	さいたまコープ	コープとうきょう	コープながの
食品リサイクル率 (%)	79.8	70.8	47.6	69.2	92.6	100.0	74.7

6 レジ袋削減にも積極的な取り組み

スーパーマーケット業界の削減率 2～3 割に比べ、コープネットグループではレジ袋の無料配布をやめ、高いレベルを維持しています。

(2009 年度実績)

生協名	いばらきコープ	とちぎコープ	コープぐんま	ちばコープ	さいたまコープ	コープとうきょう	コープながの	コープネット全体
レジ袋想定削減率 (%)	89.1	49.5	42.5	77.2	60.5	82.0	71.8	67.5

7 コープネットエコセンターへの資源物集荷のしくみは「経済産業省の実証モデル事業」に認定された社会的先進事例（戻り便を活用）

事業所から排出される資源物と、組合員から回収される資源物を店舗への商品納品の戻り便を活用し、コープネットエコセンターに集め各品目ごとに圧縮減容し、再資源として売却した利益で回収から処理のための費用をまかなっています。2010 年度は、店舗事業を対象とし、2011 年度にはコープデリ事業に広がっていきます。

8 食品リサイクルループによる商品化が進む

店舗の食品残渣を堆肥化して育てたエコ循環米、一部店舗では、食品残渣を堆肥化して生産された青果物を供給しています。

リサイクル品目一覧 (2009 年度実績)

回収品目	紙パック	ペットボトル	食品トレイ	たまごパック	通い箱内袋 (ポリビニル製)	カタログチラシ
用途	トイレ用ペーパー、ティッシュペーパー	繊維製品、文房具など	エコペンチ、文房具など	再生原料としてたまごパックなどに	ポリ袋など	再生紙の原料
回収量	1,315 トン	1,107 トン	206 トン	177 トン	588 トン	18,107 トン



マイバック持参の呼びかけ



食品トレイ・発泡スチロール

PET ボトル



ダンボール

アルミ缶



一部生協店舗の天ぷら油回収ボックス



組合員、地域諸団体、行政とともにすすめる環境保全の取り組み



自然共生社会の実現

4 食の分野を通じて、生物多様性を応援

「佐渡トキ応援プロジェクト」「沖縄もずく美ら島応援プロジェクト」などで生産者と消費者の連携をすすめます。



佐渡米を通じてトキの野生復帰と生きものを育む農業を応援



「もずく」を通じて伊平屋島の豊かな自然とウミガメたちを守る取り組みを応援